障害者雇用促進セミナー開催
2026年９月７日（月）

米原市役所３階会議室において企業担当者や支援機関、教育関係者など45名を迎え、「障害者雇用促進セミナー」が開催された。県内特別支援学校の進路指導の状況や障害者雇用を積極的に行っている企業からの事例紹介を通して、障害者雇用に関する知見を深める場となった。また、グループワークでの意見交換では、企業として採用の在り方から定着の仕方までを考える時間となった。

【プログラム】

・第１部　県内特別支援学校進路指導の現状と課題
（滋賀県立鳥居本養護学校　進路指導部長　石垣秀憲氏）
・第２部　障害者雇用における業務づくりと職場定着の取組（株式会社イトーキ関西工場　第１製造部　澤田理絵氏）
・第３部　障害者雇用に向けた支援と企業へのサポート（学校法人関西福祉学園　働き教育センター統括センター長　椋梨純子氏）
・第４部　グループワーク（意見交換・悩み共有）

【第１部　県内特別支援学校の進路指導について】

企業との連携や就労定着、卒業後のアフターフォローに加え、企業と連携した技能検定「しがしごと検定」や、特別支援学校の職業教育を応援する企業登録制度「しがしごと応援団」について紹介があり、学校と企業の連携について考える機会となった。

【第２部　障害者雇用の事例紹介】

関西工場では、障害者雇用を促進するため、全製造部の製造課・工務課に業務の切り出しを依頼し、高等養護学校と連携した作業難易度の評価などを通して障害者の方々が出来る作業づくりを進めている。2026年４月には雇用拡大を目的とした組織を立ち上げ、新たに３名を採用した。

作業指示書への部品・置き場番号の明記、原寸大の仕様書、仕分けBOX、３Ｄプリンターを活用した治具の製作など、個人の障害特性に応じた工夫や改善の取組が紹介された。

【第３部　就労系障害福祉サービス事業所より】

就労定着支援制度など、企業側にはなじみの薄い制度が紹介された。障害者の就労を継続的に支えるためにも、企業側がこうした制度や支援機関を知り、必要に応じて積極的に活用していくことが望まれる。

【第４部　グループワーク（意見交換・悩み共有）】

グループワークでは、「障害者雇用を始めるための取組」と「障害者が活躍し、定着する職場づくり」をテーマに意見交換を行った。業務の切り出しや社内の理解、コミュニケーション、本人の得意分野を活かした業務配分など、企業が抱える課題を共有した。椋梨氏がアドバイザーを務め、各グループの議論をサポートした。

参加者アンケートでは、グループワークを含め「満足した」との回答が多く、参加者にとって有意義な意見交換の場となった。協会としても、今後、多方面から障害者雇用に向けたアプローチを計画し、企業における障害者雇用が進んでいくよう取組を進めていきたい。